

### 3. ワンマンチャンバーで高気圧治療を受ける減圧症患者の実態調査

砂川美智子

(宮古病院高気圧酸素治療室)

**【研究方法・目的】** 1) 高気圧酸素治療室開設(平成7年6月)から平成9年4月までの間、当院で減圧症治療を受けた患者9人を対象に聞き取りの方法でアンケート調査を行う。

2) 当院でのワンマンチャンバーによる減圧症治療をまとめる事で今後の治療、看護の指針とする。

**【結果】** 一般的に減圧症の治療は大型チャンバーで行う。しかし当院では地理的環境からワンマンチャンバーで減圧症の治療を行っている。約2年間で減圧症治療を行った患者は9人と少なく、そのタイプは、I型のみ患者1人、II型6人、I型+II型2人で発生している。その内訳は、漁師5人、作業、観光、レジャーダイバーが4人である。潜水深度は、30~40M位で、特に漁師は、追い込み漁のため網の固定、魚の追い込み、網の引き上げ等、連続作業で潜水を行っている。アンケート調査によると漁師の殆どがライセンスを持ってなく、浮上も自分の感に頼っている等の問題点も分かった。当院で行ったワンマンチャンバーでの再圧治療では重症1人を除き、殆どの患者に効果が得られた。しかしながらワンマンチャンバー内で長時間過ごす苦痛があり治療中断になる等の問題も残った。減圧症治療にあたって最も大切な事は、その予防であり、その為には潜水を行う人々への減圧症についての啓蒙が必要であると感じた。

### 4. OHP 患者に対する看護の役割

#### 一患者からのアンケート調査に基づく検討一

山中和晴<sup>\*1)</sup> 神山千代子<sup>\*1)</sup> 中野明子<sup>\*1)</sup>

関真由美<sup>\*1)</sup> 林 有美<sup>\*1)</sup> 山口雅代<sup>\*1)</sup>

入山丈美<sup>\*1)</sup> 悦永昭子<sup>\*1)</sup> 島田祥士<sup>\*2)</sup>

大森重宏<sup>\*2)</sup>

(<sup>\*1)</sup>黒沢病院 OHP 室  
(<sup>\*2)</sup> 同 脳神経外科)

近年、高気圧酸素療法 (Oxygenation under high pressure: 以下 OHP) が活発に行われ治療効果を得ている中、当院においても平成6年1月より OHP を導入以来、その患者総数は平成9年4月までに567人となりその治療効果を挙げている。

しかし、OHP を行うにあたり医師より十分な説明を受けても自分の体に起こっている症状や OHP を受ける恐怖感、不安感などが理解できず数回で中止となる症例が多く認められる。

そこで、当院では平成6年1月から平成8年9月までの間に OHP 施行439人中95人脱落 (21.6%) があり我々はこの間アンケート調査を行い、その結果をもとに当院独自のオリエンテーションを作製し、医師からの説明後、看護側より OHP 施行前オリエンテーションを行った。平成8年10月以降オリエンテーションに基づき OHP を施行し、その結果 OHP に対しての理解が十分得られるようになり患者128人中23人 (17.9%) と脱落する症例が少なくなった。又、オリエンテーションを行う事により看護側からアプローチし患者とのコミュニケーションがより改善される事も示唆された。

以上より OHP 施行前のオリエンテーションが一つの方向性を見出し安全に OHP を施行する手段となった為この詳細をここに報告する。